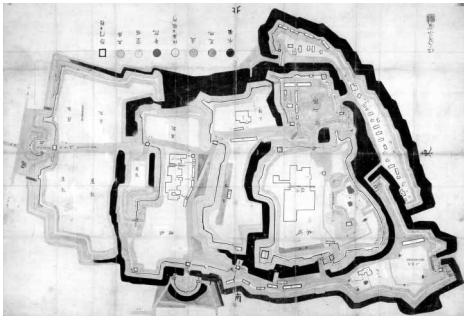


川越城の拡張

長禄元年（一四五七）、扇谷上杉持朝の命により太田道真・道灌父子が築いた川越城。左の絵のような外郭を備えた近世城郭への修築・拡張は、慶安年間から承応年間ごろ、松平信綱が初めて実施したというのが定説でした。当時の様子を後世書きとめた「古代日記」（水村家文書）には慶安三年（一六五〇）から明暦二年（一六五六）ごろと記しています。また、江戸時代前期に活躍した川越商人・榎本弥左衛門の記録「万之覚」にも、承応二年（一六五三）に川越城の大手門が出来て、城の周囲の土塁はその前年に築いたとあります。

ところが、前回紹介した調査で「川越城図」などに描かれていない大堀が発見されました。そして「古代日記」によると、川越城は天正十八年（一五九〇）、豊臣秀吉の関東攻めで無血開城し、その後城は破却され、馬出しは崩され、外堀も埋められたと記されています。



川越城図（中央図書館蔵）

前回紹介した大堀からは、十六世紀末のかわらけも出土しています。もし、大堀も同時期に掘られたのであれば、秀吉の関東攻めの際に埋められた外堀は、この大堀であった可能性があります。今後の調査によって、信綱が修築・拡張する前に掘られた、「川越城図」などに描かれていない幻の堀の謎を解明することができるとも思われます。

世界の国から、こんにちは！



メキシコ/グズマン・レオさん（左）ルピタさん（右）

グアダハラ大学の大学院から、日本の文化などを学ぶために、メキシコで結婚した妻と一っしょに来ました。日本は都市がきれいで便利で、優しい人ばかりなので、楽しく生活しています。日本食もおいしいですね。

川越は蔵造りの町並みなどが、タイムスリップしたようで好きですね。川越まつりも大好きです。将来は、日本とメキシコの伝統工芸品を扱う貿易会社をつくりたいと考えています。来年3月に帰国しますが、川越でたくさんの人に親切にしてもらったので、帰るのがつらいですね。
*外国籍市民の皆さんが対象の催しなどは13ページ・15ページ・27ページ、相談は23ページをご覧ください。

国際交流課国際交流担当・TEL内線2141

どんぐり

編集後記

通勤に電車を利用して最近感じるのは、外国の方をよく見かけるようになったこと。仕事帰りなのでしょうか、同僚といっしょに電車に乗り込み、日本語を学ぶ様子を見る機会もありました▶「統計かわごえ」によると、川越市の外国人登録人口は平成15年1月1日現在が4,041人、同19年1月1日現在が4,445人と、4年間で1割ほど増えました。外国籍市民の皆さんに情報を効果的に伝えることも、広報の課題です▶広報川越では現在、外国籍市民の皆さんにかかわる情報について、右にあるコラムのように、すべての漢字にふりがなを付けています。そして、表紙や裏表紙で情報が掲載してあるページを案内しています。これからも、市民の皆さんと共にさまざまな課題に対して研究を重ね、広報川越をよりよくしていきます。